

悠久の時を超えて畑の下に広がる古代遺跡

明日話したくなる！

幡羅遺跡のい・ろ・は



深谷市
イメージキャラクター
ふっかちゃん

ここが幡羅遺跡かあ～！
一面に畑が広がっているんだねえ♪
そういえば、幡羅遺跡っていつ頃の
時代にあったのかなあ～？
教えて！ハラく～ん！

幡羅遺跡を上空から撮影した写真。
国史跡に指定された面積は、約10
ヘクタールです。

は～い、ふっかちゃん！
幡羅遺跡は、飛鳥時代の終わり（7世紀）から
平安時代の初め（10世紀）にかけてあったと
言われています。その頃の日本では『大化の改
新』や『壬申の乱』が起こっていました。
遺跡は今、この畑の下でとても良い状態で保存
されていますよ！



幡羅遺跡
マスコットキャラクター
ハラ君(1300歳)
幡羅遺跡の発見とともに
誕生したハラ君。以前は、
ふっかちゃんをライバル視
していたこともあるのか？！

飛鳥時代から平安時代にかけて、現在の深谷市東
方付近に出現した幡羅遺跡が、平成30年2月に『国史
跡』に指定されました。深谷市では初の国史跡です。
指定されたのは、幡羅遺跡(東方地内)と西別府祭
祀遺跡(熊谷市西別府地内)で、併せて『幡羅官衙遺跡
群』と命名されました。

今月の特集では、幡羅遺跡を知る入門編として、幡
羅遺跡が国史跡に指定された理由や、発掘にまつわるエピソードなど、明日話した
くなる『幡羅遺跡のい・ろ・は』をご紹介します。



『国史跡』とは、歴史的・学術的な価値が高いとして文部科学大臣が指定する遺跡で、『官衙』
とは役所を意味する言葉だよ。

幡羅遺跡 国史跡指定の理由

まずはここから！

現在、国史跡は全国に約1800カ所あります。
多そうにも思えますが、実は全国に約46万カ所ある
遺跡の中で、約0.4%しかない貴重な遺跡なのです。
では、幡羅官衙遺跡群は、どのようなところが評価され、国史跡に指定さ
れたのでしょうか。
その理由を、文化庁文化財調査官の近江俊秀さんおのみとしひでに伺いました。



国内で数カ所しかない 非常に珍しい遺跡

幡羅遺跡が出現した頃は、中央
集権国家の整備が進められた時代

です。国は地方を支配するために、
各地に郡役所を設置しました。

日本中で約600の郡役所があ
りましたが、幡羅遺跡は正倉しょうそうをは
じめ、郡役所を構成するさまざま

な施設がとても良い状態で残ってい
るおかげで、郡役所の全体像を把握
することができました。

さらに、近くにある寺院跡・祭祀
跡とともに、郡役所の成立から廃
絶までの過程を確認することがで
きます。このような郡役所跡は、現
在、国内で1〜2カ所しかなく、非
常に珍しい遺跡なのです。
そうした点から、幡羅官衙遺跡
群は国史跡に指定されました。

幡羅遺跡の『未来』へ 積極的に関わりを

地方の歴史を解き明かすこと
は、国の歴史を解き明かすことにつ
ながっています。幡羅遺跡も、この地
域の歴史とともに、日本の歴史を
雄弁に語っています。日本の古代を
解き明かすのに、欠かせないもので
す。

深谷市の皆さんには、深谷市に
このような貴重な遺跡があること
に、誇りを持っていただきたいです。
そして、今後の幡羅遺跡の活用な
ど、幡羅遺跡の『未来』にも、ぜひ積
極的に関わっていただきたいと願っ
ています。

『正倉』とは？

正倉とは、当時の税である
米が入っていた倉庫です。
郡役所では、税の徴収・運搬・
管理などが行われていました
が、特に税の徴収は重要なも
のでした。

炭化したお米が出土

遺跡からは、正倉が燃えて
炭化した米が出土しています。
正倉が『神のたたりで燃え
た』とされていますが、実
態は不正に米を使った役人が、
それを隠すために正倉に放火
したものと考えられています。



▲出土した炭化米



文化財のプロフェッショナル
文化庁
文化財調査官 近江俊秀さんおのみとしひで

特集 悠久の時を超えて畑の下に広がる遺跡
明日話したくなる! 幡羅遺跡のいろは



▲発見された柱穴や基礎部分を基に、当時の歴史的背景や古代の建築技術を参考に復元された正倉

幡羅遺跡は、平成13年度に大型の倉庫（正倉）跡が発見されたことをきっかけに調査が始まりました。調査では、倉庫のほかにも、視察に来た中央政府の役人が宿泊する施設（館）や役人をもてなす料理をつくる施設（厨家）、遺跡を貫く道路などが造られていたことがわかっています。

中宿遺跡は、幡羅遺跡よりも10年早く発見されました。県内で初めて発見された古代郡役所です。調査の結果、23の建物跡が見つかり、大規模な倉庫群が確認され、幡羅遺跡と同じ時代にあったものと考えられています。

ハラメモ 発掘エピソード

幡羅遺跡の発見は 中宿遺跡のおかげ!?

幡羅遺跡発見のきっかけは『正倉』跡の発見なんですけど、実は調査担当者さんが以前、中宿遺跡で正倉跡を見ていたので、「大きな正倉跡だ」とすぐにわかったそうです！中宿遺跡での調査が、幡羅遺跡の発見につながったんですね～！



中宿遺跡は、現在は保存され、『中宿歴史公園』として、市民の憩いの場となっています。園内には、2棟の正倉が復元されていて、間近で見ながら当時の様子や想像することが出来ます。ほかにも、運河とみられる河川跡には池が整備され、夏にはたくさんのお花が咲くなど、見どころが盛りだくさんです。古代の景色を思い浮かべながら、憩いの時間を過ごしてください。

は いろは 古代の幡羅遺跡の景色を想像してみよう！ 復元された正倉を見られる 県史跡『中宿遺跡』にレッツ・ゴー！



▲『武蔵国幡羅郡から見た古代史～北武蔵歴史探訪～』の表紙

知れば知るほど面白い幡羅遺跡

幡羅遺跡には、まだまだ多くのエピソードがあります。現代を生きる私たちの生活に通じる話もあり、きっと知れば知るほど面白く、幡羅遺跡を身近に感じてもらえると思っています。

図書館では、幡羅郡の歴史をまとめた冊子『武蔵国幡羅郡から見た古代史～北武蔵歴史探訪～』を貸し出ししていますので、ぜひご覧ください。



幡羅遺跡調査の第一人者 深谷市文化振興課 課長補佐 知久裕昭



▲廃棄土坑(当時のごみ集積場)



▲廃棄土坑から出土したもの。土器のほかに動物の骨や貝殻などが発見された。

ハラメモ 発掘エピソード

見つけてくれてありがとう！
実は、ボクが見つかったときは、単なる『土の塊』と思われてたんです。でも、その後の洗浄作業で、顔が描いてあることを見つけてもらえました。作業員さんたちは「わあ～！顔が描いてある!!」って、とっても驚いていたなあ。見つけてくれてありがとう！



視察に来た中央政府の役人の宿泊施設である『館』の近くには廃棄土坑(当時のごみ集積場)があり、そこから食器と思われる多くの土器とともに、動物の骨や貝殻

なども出土しました。これらは、館で行われた宴会で出されたものと考えられています。このことから、館の近くには役人をもてなす料理を作る『厨家』があったと推定されます。

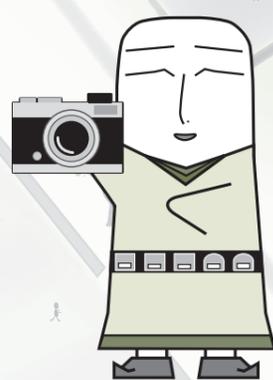
館と厨家

刻土製品です。『かまど』がある建物跡から出土しました。鍋を火にかける時の支えになる道具の一部と思われる、表面に刻まれている線は『かまどの神様』を表していると考えられています。



上の写真は、ハラ君のモデルとなった出土品『人面線刻土製品』がある

これがハラ君のモデル！



は いろは 出土品から見えてくる！ 幡羅遺跡のすがた

海産物も用意された豪華なおもてなし
幡羅遺跡が出現した時代、庶民の食事は玄米と汁物、青菜と塩といった、とても質素なものでした。一方、郡役所跡である幡羅遺跡からは、獣骨のほかにも、海から遠く離れた地であるにも関わらず、はまぐりなどの海産物も出土しています。現在の流体制がない時代では、手に入れるのも大変であったに違いありません。このようなことから、当時の郡役所では、とても豪華な食事で中央政府の役人をもてなしていたということがわかります。



▲中央政府の役人が食べていた食事のイメージ(画像提供:奈良文化財研究所)